

# 平成29年度 長崎県立西彼杵高等学校

## 第70回入学式 式辞

例年よりやや遅い桜が、今を盛りと咲き誇り、生命の躍動が感じられる春となりました。本日はご多用にもかかわらず、多くのご来賓の皆様にご臨席を賜り、晴れの入学式を挙行できますことを、心からうれしく、光栄に存じます。ありがとうございます。

ただ今、長崎県立西彼杵高等学校第七十回生五十二名の入学を許可いたしました。皆さんの入学を、学校を挙げて歓迎いたします。本校は昨年度創立七十周年を迎え、県内の伝統校の一つとして、今後さらなる発展を期しております。皆さんの入学を大きな力とし、在校生、教職員とともに、学校の活性化に励んでまいります。

保護者の皆様におかれては、立派に成長したお子さまの晴れ姿をごらんになり、喜びも一入のことと拝察いたします。お子さまの西彼杵高校へのご入学、おめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。これからの3年間、皆様と手を携えて、お子さまの教育に取り組んでまいり所存であります。

さて、新入生の皆さん。これからの三年間、今ここにいる仲間や先輩たち、そして先生方とともに、高校生活を送っていきます。どうか「明るく、元気に、前向きに」高校生活を送ってほしいと思います。

高校生活を送る上では、楽しいことばかりではなく、辛く苦しいことも多いと思います。学習や部活動、そして周囲との人間関係で悩むことも多々あるのではないかと想像します。そんな皆さんに、心に留めておいてほしいことを二つ申し上げたいと思います。

第一に、「高い理想を抱き、それが実現できるのだという希望と決意を持って高校生活を送ってほしい」ということです。

今の皆さんは、高校生活を送るにあたっての不安がある一方で、それと同じくらい大きな期待があるのではないのでしょうか。将来このような職業に就きたい、大学でこのような勉強をしたい、部活動で頑張りたい、英語を一生懸命勉強したいなど、それぞれに理想や希望があるはずです。

しかし、ただ心に念じるだけでは実現できるはずはなく、そのための方法を探り、それを実行に移さなければなりません。そして、それは決して容易なことではありません。理想や希望に向かって進んでいく過程で、何度となく障害にぶつかり、挫折を経験することも少なくありません。

私たちは壁にぶつかると、うまくいかない原因を自分以外に求めがちで、それに対して不平不満をぶつかけたりします。自分自身のことは棚に上げて、「周囲がこうしてくれない」とばかり思っていないのでしょうか。

それについて、作家の井上靖氏は「努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る」と述べています。ここでは、「努力する人」と「希望」が繋がられ、「怠ける人」と「不満」が繋がられています。同じ人生ならば、不平不満の中で生きるより、物事を肯定的に受け取って日々の生活を充実させることがより生産的であり、また結果も好ましいものになるはずです。

さて、皆さんは、次のどちらを選ぶことでしょうか。努力を重ねることで希望を語り、希望を語ることでさらに努力を重ねるような高校生活を送るのか。うまくいかない原因を周囲に求め、その言い訳として不平不満を述べるような高校生活を送るのか。答えはおのずから明らかであろうと思います。

第二に、「人間の多様性を認め、他者と学び会う中で自分を高めることを意識して高校生活を送ってほしい」ということです。

私たちにとって、自分という存在は唯一無二のものであり、ほかの何ものにも代えることができないものです。しかし一方で、他者との深い関わり合いなしには社会生活を送ることはできません。そしてそれは、大きな喜びや他者に対する感謝の念、人間に対する深い洞察を私たちに与えてくれる一方、時として他者への怒りや失望、煩わしさという負の感情をももたらします。

また、広く世界を見渡せば、アメリカのトランプ政権の誕生、イギリスのEU離脱、中東情勢の一層の不安定化など、果てしない分断と容赦ない排外主義の嵐が吹きすさんでいます。歴史が示しているのは、これまで地球上から戦争や紛争が途絶えたことはなく、多様性の容認や寛容さを保つことがいかに困難であるかということではないのでしょうか。

このように、私たちは往々にして「自分の周りには多様な人たちが存在し、さまざまな見方や考え方がある」というごく当たり前のことを忘れてしまい、人間の多様性を考慮せず、狭い

ものの見方や考え方に固執してしまいがちなのです。

そんなとき思い起こしたいのが、十八世紀フランスの哲学者ヴォルテールの言葉です。「私はあなたの意見には反対だ。だがあなたがそれを主張する権利は命をかけて守る」。これは、「言論の自由」についての言及であるとされていますが、これこそ「多様性の容認」ではないかと私は考えています。自分と意見や考え方を異にする他者の存在を認め、尊重する姿勢を、私は皆さんに求めたいと思います。

本校では、平成二十七年度から二十一世紀型学力観に基づくアクティブラーニングの一種である【学びの共同体】と呼ばれる協同学習に全教科・全学年で取り組んでいます。そこでは、学力の保障は当然のこととして、生徒の皆さんが協同的に学び合うことにより、互いを尊重し、互いに高め合うという場面が立ち現れてくることでしょう。

また、【学びの共同体】とともに本校の教育活動を支える「生徒会文化活動」等においても、それぞれの役割に応じたさまざまな場面が用意されており、他者との関わりにおいて自己を高めるといふ望ましい姿を実現できるものと確信しております。

【学びの共同体】と「生徒会文化活動」という両輪の中であれば、人間の多様性を認めつつ他者と学び合う中で自分を高めることはおのずから実現可能であり、皆さんの人間性の陶冶に十分資するものであると自負しております。

今述べた二つのことについては、これからも折に触れて皆さんにお話しすることになります。皆さんも、是非肝に銘じておいてほしいと思います。

さあ、新入生の皆さん、いよいよ高校生活が始まります。順風の時もあり、逆風の時もあることでしょう。しかし、先ほど申し上げた「明るく、元気に、前向きに」ということを肝に銘じ、たくましく突き進んでほしいと願っています。

最後になりましたが、本日ご列席のご来賓や地域の皆様、そして保護者の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げるとともに、西彼杵高等学校の生徒たちを、これまでどおり温かく見守っていただくことをお願い申し上げます、式辞といたします。

平成29年4月10日

長崎県立西彼杵高等学校  
校長 城 博